

地域母子保健福祉情報紙 No.293

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）
 国及び地方自治体
 関係諸団体と連携協力して
 母子保健の重要性を啓発し
 母性の健康を守り たかめ
 心身ともに健全な児童の
 出生と育成に寄与してまいります

健やか親子 21 全国大会によせて

妊婦等包括相談支援事業における伴走型（寄り添い型）支援 ～太古から、育児はみんなの手助けで～

令和 8 年度「健やか親子 21 全国大会」が開催されますことに、こころからお喜び申し上げます。コロナ禍から研修等はオンライン、ハイブリッドで行われることが増えましたが、今回各種表彰式は対面、集会等はオンラインでの開催になります。

寄り添い型の伴走型支援とは

妊婦等包括相談支援事業は令和 7 年度から児童福祉法に位置づけられ、同時に子ども・子育て支援法に位置づけられた妊婦給付金と連携し、相談支援体制の強化を図って展開されています。この給付金は、令和 4 年度の補正予算では出産・子育て応援交付金として開始されたもので、伴走型相談支援と組み合わせて実施されていました。妊娠期からの相談支援体制が、伴走型相談支援から妊婦等包括相談支援と名称は変わりましたが、妊婦等包括相談支援事業の説明では、「妊婦・その配偶者等に対して面談等により情報提供や相談等（伴走型相談支援）を行う事業」となっ

ていますので、同じ内容の事業です。

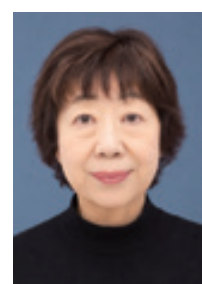
伴走型支援はこれまでの母子保健活動の面談や家庭訪問活動と何が違うのでしょうか。一つは、妊婦給付金の面談でこどもが生まれる前に会うことで、困難が起こる前の予防的な支援を行うことができることです。出産はゴールではなく、骨盤や骨盤底筋等に負荷をかけ、乳房も母乳を作り出すといった大きな負担を乗り越えて、育児の長い道のりが続きます。二つ目はこのことを見越した、産後ケア事業の早めの導入や、父親の育児など親族の導入に加え、「他人に頼ってもいいんだ」というメッセージを送ることができることにあります。

私たちは太古からひとりぼっちではなく、周りの人の手を借りて子育てをしてきました。いわば介護保険の介護度 2（立ち上がりや歩行が自分では困難で、衣服の着脱、入浴、排泄など日常の身の回りの動作全般に介助が必要な状態）になりかねない状況で、育児を一人でするのではなく、食べ物是他の人

がとってきてくれるなど、みんなの手助けがありました。伴走型支援をする人が直接太古のようにサポートするのではなく、見守り、

寄り添い型の支援をマ ラソンのような目的がはっきりしている方の伴走ではなく、「わたし」の状況をよく理解し気にかけてくれ、実際に支援してくれなくても、使えるサービスにつないでくれる、サービスの提供者と連携して「わたし」のことをわかってきているという思いを持っていたけような関わりが、寄り添い型の伴走型支援ではないでしょうか。

健やか親子 21 全国大会で本会議が行う「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国大会」では、さらにイメージが持てるようテーマを「妊婦等包括相談支援事業における伴走型（寄り添い型）支援のあり方」といたしました。口腔機能の発達、こども家庭庁様からの母子保健施策の動向につづき佐藤の基調講演、自治体からの報告があります。ぜひともオンラインでご視聴いただきたく思います。



佐藤 拓代 会長

公益社団法人 母子保健推進会議

会長 佐藤 拓代

今月のページ

- 健やか親子 21 全国大会によせて
 妊婦等包括相談支援事業における伴走型（寄り添い型）支援 1
 44 名と 2 団体のみなさまに心よりお祝い申し上げます
 健やか親子 21 全国大会本会議会長表彰被表彰者功績紹介 2
 令和 8 年度「健やか親子 21-8020 の里賞（ロッセ賞）」受賞団体決る 8
 「健やか親子 21 全国大会」併設本会議全国集会、今年度もオンラインで
 「妊娠中から知っておきたい赤ちゃん和妈妈のこと」追加希望受付中です 12

令和 8 年度「健やか親子 21 全国大会(母子保健家族計画全国大会)」において、地域で母子保健の向上、こどもの健やかな成長のため、それぞれの専門性や立場で長年尽力され功績をあげられた個人・団体に対して、その労苦に敬意と感謝の意を表するため「公益社団法人母子保健推進会議会長表彰」を行う。本稿では、表彰を受けられる個人 44 名と 2 団体の功績の一端を紹介する。なお、紙面の都合により以下のとおり省略する。

昭和=S、平成=H、令和=R、母子保健推進員=母推 ※功績紹介にあたっては推薦依頼時に了承を得ています。

個人の部

【青森県】篠崎美女子(保育士) 保護者が家庭で保育できない病児を保育する青森市病児一時保育所において、開設当初の H20 年 4 月から R3 年 3 月の定年退職まで主任として勤務してきた。限られた保育士の数の中で効率的に保育所の運営および調整を行うとともに、保育士に欠員が出た際は協力的に業務を行う。定年退職後も主任時代の経験を活かして保育所の運営、青森市の病児一時保育、安心した子育て環境の整備に大きく貢献している。

【岩手県】石崎由起子(保健師) 乳幼児から高齢者まで一人ひとりに寄り添い献身的に保健活動に尽力。母子保健分野では乳児、1 歳児、2 歳児、思春期の各種相談や訪問など個々のこどもや家庭の状況に応じたきめ細かな支援を実践。H22 年度からは町独自の 5 歳児相談事業を立ち上げ、また同年度から保育園及び小学校に向いて相談支援を行う「こども相談事業」にも取り組み、こどもの成長を継続的に支えるしくみ、保健福祉部門と保育・教育部門の連携体制の構築に貢献。地域住民に身近な専門職として、個々のこどもや家庭、地域の実情に即した保健活動の推進に努めるほか後進の育成にも尽力。

【岩手県】藤原真由子(保健師) 25 年にわた

り地域に根差した母子保健活動に取り組む。H22 年度には 3 歳児健診に心理職を配置し、発達に関する困り感や相談、早期支援を推進。R2 年度には子育て世代包括支援センターの立ち上げに尽力し、医療・保健・福祉の連携による切れ目ない支援を推進。R3 年度には子育て支援センター内でマタニティサロンを開始、R4 年

度には同センター内に乳児沐浴槽を設置し直営のデイサービス型の産後ケアを開設。地理的に長年の課題であった 3 歳児精密健康診査を県立病院にて実施可能となるよう尽力。R6 年度には小児科医と 5 歳児健診実施に向け準備を行うなど、地域の課題やニーズを汲み、精力的に活動している。

【秋田県】伊藤忠彦(医師) 勤務医・開業医として小児科診療、健康相談にあたるほか、乳幼児健診(1 か月、4 か月、7 か月、10 か月、1 歳半、3 歳)、予防接種を継続実施。また市内 5 保育園の園医、2 小学校医として内科健診、保健指導にあたる。市唯一の病児保育園の事業運営にあたり園長職に従事。市医師会、県医師会、県小児科医会では乳幼児担当理事や委員を務める。乳幼児の健康に関する講演、保育園では小児救急保護者講習会を実施、県立看護学校の講師も勤めるなど小児医療、母子保健に多岐にわたり貢献。

【秋田県】宮城智恵子(助産師) H4 年より病院勤務を継続し、お産が夫婦にとって心に残る体験となり赤ちゃんがかわいいと思えるような支援、育児を楽しめるような関わりを心掛ける。R8 年には乳房管理士・産後ケアプロフェッショナルケアの認定を受け、院内での産後ケア事業に取り組む。また「あきた母乳育児をささげる会」では世話人として、「子ども子育て応援ハウス Growing up」産後ケアハウスではボランティ

44 名と 2 団体のみなさまに



佐藤会長より表彰状を授与 (R7 年度大会にて)

アとしてのマッサージのボランティア、「いいお産の日」イベントでは育児相談等を担当するなど、地域での母子支援を積極的に実践し県民の健康増進に貢献。県助産師会においても理事を歴任し、会の活動、県内助産師の資質向上に重要な役割を担っている。

【茨城県】山口千賀子(助産師) H9 年より町の新生児訪問指導事業を委嘱されたのを始めとして、H10 年からは母親教室講師、R1 年度からは産後ケア事業(訪問型)の委託を受け実施。少子化により教室は開催困難になるも、妊婦訪問により個別支援を継続。現在まで新生児訪問、妊娠婦訪問、産後ケア事業、乳幼児健診等、幅広く町の母子保健事業に協力。直近 10 年間の訪問件数は 176 件にのぼり、町の出生の 6 割以上の母子に対して支援を行っている。多年にわたり、町の母子保健事業の充実とこども達の健やかな成長に尽力した功績は非常に大きい。

【埼玉県】富永悦子(歯科衛生士) 歯科大学病院で歯科保健指導や母親学級を担当。小児障がい児施設職員への保健指導や訪問しての障がい児宅を訪問して口腔清掃や親への指導を行う。R4 年からは県歯科衛生士会朝霞支部の 4 市 1 町の 1 歳 6 か月・2 歳・3 歳児において歯科健診、栄養指導、フッ化物塗布、小中学校で歯科保健指導を実施。保育士資格を取得し、乳幼児の心

心よりお祝い申し上げます



R7 全国大会表彰式で挨拶する黄川田前大臣

身的特徴を鑑みた指導を心掛ける。保育園園長・歯科衛生士学校教員を兼任、学生に乳幼児への歯みがき実習を実施。こども食堂のボランティアにも参加するなど、幅広く献身的に活動している。

【千葉県】佐藤幸江（助産師）30年近く助産師として活動。病院では妊娠・分娩管理に従事するとともに、地域における母子保健活動を通して多くの母親とその家族を支えてきた。市の子育て支援専門員として新生児訪問を担当、クリニック勤務時にはハイリスク妊婦や課題を抱える家庭について市の保健師や児相など関係機関と連携し、母子の安全確保とメンタルヘルス支援に尽力。R2年に助産院を開業し、母乳育児支援の訪問や産後ケア事業に従事。母親一人ひとりの声に耳を傾け寄り添う支援を継続し、親子が安心して暮らせる地域づくりに大きく貢献。

【千葉県】菅森美由紀（母推）母推として25年間、地域の子育て支援に貢献。H25年から11年間は会長として他の役員とともに、30人からなる市の母推協議会をまとめてきた。退任後も役員の相談役となり、慣例にとられない持続可能な役員体制の構築に尽力する。推進員が個々に行う家庭訪問や、協議会主体のベビーサロンの運営をより良

いものとするため、さまざまな意見に公平に耳を傾け、子育て家庭への支援はもとより、会員が活動しやすい協議会づくりに長年尽力。

【神奈川県】諏訪和美（助産師）病院や助産院勤務時には、3,300件の分娩、31,070件の妊婦健診や乳房ケア等に携わる。川崎区保健福祉センターでは母親学級、乳幼児健診約2万件、新生児訪問約420件。また助産師学生の受け入れにあたって昼夜問わず指導を行った。地域子育て支援拠点の助産師相談、ハローベビー神奈川の電話相談も担当し、子育てやジェンダーの悩み等の相談に応じた。R4に諏訪母乳相談室を開業し、川崎市産後ケア事業で訪問型298件に対応している。訪問看護ステーション設立後は、早産児や多胎児、障がい児、精神疾患のある母の子育てなど母子に特化した訪問看護に携わっ

ている。現在、川崎市助産師会監事。

【神奈川県】猪股誠司（医師）H23年度から平塚市医師会で実施した「5歳児健診モデル事業」に中心的に参画。平塚市5歳児健診事業の開始後はアドバイザーを担うとともに、市こども発達支援室の小児精神科医として、幼児の健やかな成長、保護者支援に貢献。また市子ども教育相談支援センターにて児童生徒の就学に係る支援について調査審議をするほか、「医療と連携した学校教育相談」において児童生徒の心の問題について教員と話し合い、適切な教育環境となるよう尽力。県立支援学校精神科学校医、県発達障害支援センター医療相談派遣医などとしても精力的に活動するなど母子保健の向上とこどもの健やかな成長への功績は多大。

【富山県】大嶋昭子（母推）H20年から活動し、妊娠8～9か月の初産婦と乳児家庭を対象に訪問を行い、状況確認や各種教室の参加勧奨等を行う。特に、若い母や転入で孤立しがちな母に対し、親身な語りかけで育児不安を解消に努める。市の母推協議会の理事、監事、副会長、会長を歴任、各種会合にて母推の認知向上に努めるなど会の発展にも寄与。子育て中の親子のニーズに合わせ「親子ほっとカフェ」、「ねんね・たっちアート撮影会」等の事業を企画・運営するほか、市の子育て支援センター運営協議会委員、健康づくり推進協議会委員なども努め、母子保健のみならず市のさまざまな課題に助言、協力を行っている。

お口の恋人
LOTTE

**むし歯のない社会へ。
ロッテ キシリトールガム**

もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。キシリトールの世界が広がりました。
大切な歯のために、キシリトール習慣！

消費者庁許可 保健機能食品（特定保健用食品）（公財）日本学校保健会推薦（一社）日本学校歯科医会推薦

食品初！ 日本歯科医師会推薦商品 **XYLITOL**

www.lotte.co.jp
かんだ後は包んでくずかごへ。

【富山県】鍋谷明美（母推）H25年に母推として委嘱を受けて以来、町が開催する「ママのリフレッシュ教室」や「離乳食教室」において託児を実施。母推協議会の事業である4か月健診時の絵本の読み聞かせや育児教室等での手づくりおもちゃの伝達、「すくすく教室」での大型絵本の読み聞かせなどに積極的に取り組む。R2年度から町母推協議会の会長として、会員の親睦を深め、資質向上のため研修会や講演会への参加奨励に尽力。活動へのひたむきな姿勢や、実直で温厚な人柄から会員からの信頼も厚く、会の発展に大いに貢献。県協議会理事も務める。

【富山県】島治美（母推）20年以上にわたり母推として子育て家庭を訪問。母親の想いに寄り添い子育ての不安軽減に尽力。乳児とその保護者や妊婦を対象とした「赤ちゃんにこにご教室」では日々のストレスを軽減する楽しい内容を企画し、親子のふれあい、保護者の交流を促すなど地域に根付いた活動を展開している。市母推協議会の副会長、広報部長を12年務め、協議会活動や母子保健に関する情報を市民や関係機関に発信。監事、会計も歴任。富山県母推協議会が発行する機関紙制作にも協力するなど、富山県の母子保健の啓発にも貢献している。

【石川県】橋本葉子（母推）H18年に母推となって以来、乳幼児健診や育児支援教室などへの協力、参加奨励等母子保健活動に積極的に協力。育児支援教室では保育士、幼稚園教諭の資格を活かした専門的なアドバイスに加え、食生活改善推進員として栄養面での助言も行う。町が開催した健康フェア「子どもの写真展」では多くの母親や祖父母たちに参加を促す等、世代間育児を積極的かつ継続してサポート。H20年から志賀町母子保健推進員の会長を担い推進員の軸として、長年にわたる功績は顕著である。

【石川県】森川眞澄恵（母推）H17年に母推として委嘱を受け、21年にわたり活動。市の母子健康診査（4か月児、1歳6か月児、3歳4月

児）では、診察の介助や計測のほか相談業務の補助などに従事。看護師としての経験を活かし、医師と母親の橋渡し役を務めるとともに、児や保護者が安心して診察を受けられる雰囲気づくりなど、健診が円滑に行われるよう尽力。温厚な人柄で母子に寄り添いながら声をかけ、地域の母子を見守り続ける頼りになる存在で

あり、今後ますますの活躍が期待される。

【福井県】城野明美（保健推進員）20年にわたり保健推進員として各種乳幼児健診への協力など熱心に活動する。H29年から町独自の事業として展開する「がん予防スタートプロジェクト」では、保健推進員と食生活改善推進員が協働する体制づくりに尽力。児童館で紙芝居を活用し、こどもの頃から健康的な生活習慣を身につける重要性を伝えている。また長年継続して取り組む健康づくりの自主グループ活動では住民同士のつながりを深め、保健推進員活動で得た知識を地域に還元し、地域住民の健康意識の向上と主体的な健康づくりの促進に貢献した。

【福井県】増尾恭子（母推）母推として18年間活動。育児相談や幼児健診時の受付や計測・記録等市の母子保健事業に協力する中で、こどもたちにやさしく声掛けをしている。健診終了後には、母推の自主活動として健診時に頑張ったご褒美に折り紙のメダルを作り渡している。研修にも積極的に参加し子育て支援に関する情報を得、活動に活かしてきた。市の母推理事を務めた際は、活動全体について検討・率先して意見を出し、活動のとりまとめを行った。地域活動に関心のある方に声をかけるなど活動の担い手を増やすことにも尽力している。

【山梨県】長愛子（助産師）S59年より、各施設、海外と活動を広げ、神奈川県、山梨県北斗市と助産院を開業。通算1867例の出産に立ち会う。コロナ禍においてもできる範囲で立ち会い



佐賀県母推協議会 30 周年記念大会で挨拶する佐賀県知事

分娩等に取り組んできた。現在も40歳未満のリーダーの分娩介助を継続し、産後ケア入院や訪問も実施。多くの妊産婦、褥婦に関わり、母乳育児の支援や保健指導に携わり、また、いのちのお話の講演を50施設以上に実施、さらに市町村と連携し、母子にとどまらず結婚相談など女性に寄り添う活動を継続している。

【岐阜県】阿部奈都子（歯科医師）S54年に阿部歯科医院に勤務開始。市の健診や保健指導等も担い市民の健康増進に努める。特に、乳幼児期から学童期に至るこどもの口腔機能の発達やむし歯予防に着目し、早期からの予防的な歯科保健指導や適切な習慣づくりの啓発活動に積極的に取り組んできた。妊産婦および乳幼児の保護者に対して丁寧で親身な相談・指導を行い、地域住民のみならず、関係医療従事者からも深い信頼を得ており、歯科医師として地域医療および公衆衛生の向上に大きく貢献している。

【滋賀県】越田繁樹（医師）小児科医として永年にわたり新生児集中治療の診療にあたる中で、救命医療のみでは回避困難な症例に着目し、死亡に至る要因の体系的な解明と予防可能な要因を明らかにするため、県内の産科医、新生児科医等と連携して症例検討を継続的に実施し、地域横断的な検証体制を構築。予防的取組の確立および医療体制の改善に取り組むとともに、地域保健施策の推進に資する知見の発信を行い、その成果として滋賀県の周産期死亡率は大きく改善、地域周産期医療の向上に多大に貢献。

【滋賀県】三田村七福子（助産師）長年にわたり一貫して周産期ケアとウイメンズヘルスケアに携わる。母性看護専門看護師となっからは、さらに心理/精神/社会的に複雑な課題をもつハイリスク妊産婦やその家族を対象にスペシャリストとしてケアを担うとともに、チームやエキスパート助産師へ支援・育成、行政や児童相談所との関係性の構築にも努め、連携・協働の標準化に努めた。母性看護分野が専門看護師の分野の一つとして認定されるべく尽力し、3年間の実績報告を元に日本看護協会による分野認定に至る。H15年には個人審査にて第一号として認定され、後進の育成にも努めた。

【兵庫県】嶋津佐織（保健師）33年間、地域保健行政に従事。母子保健分野では一貫して保護者に寄り添う支援を実践し、組織内にその姿勢を浸透させた。また核家族化が進む地域特性を踏まえ育児相談の場「まちの保健室」を発案、立ち上げに尽力、ほか両親学級の日曜開催の導入、療育相談事業の立ち上げ、思春期教育の開始、町の各種マニュアルの策定、こども家庭センターの設置に携わるなど、母子保健施策の充実、人材育成、関係機関との連携強化など町の母子保健の向上に顕著な功績を残している。

【和歌山県】中岡幸子（母推）35年にわたり母推として地域の母子保健活動に尽力。乳幼児健診や離乳食教室への協力を通じて子育て支援に熱心に取り組み、家庭訪問では適切な助言を行うなど、こどもの健やかな成長を見守る。R8

年4月からは海南市の協議会会長を務めながら、和歌山県母子の健康づくり運動協議会の地区副支部長を務め、支部研修会の企画運営も行うなど、会員の模範として、また組織育成の中心的な役割を果たしている。

【山口県】新明史子（母推）35年にわたり活動。担当地区の妊婦や親子に会いたいとの思いから何度も熱心に訪問し、地区の親子双方から慕われ、また継続して訪問することから親子や家庭の様子がよくわかり、保健師が訪問をする上でも必要な情報提供となっている。育児学級や健診の際にも母親が孤立しないようやさしく声掛けを行っている。町母推協議会副会長を7年務め、地区組織の育成強化にも尽力。定例の研修会にも積極的に参加し、活発な意見交換の場づくりの一因にもなっている。R7年度山口県母子保健推進協議会会長表彰を受賞。

【山口県】河村文江（保健推進員）H19年より妊産婦や乳幼児から高齢者までを対象に活動。市母推協議会会長を8年務め、7支部体制に加え萩市部を10ブロックに分けリーダーを置き、ブロック同士が繋がり情報・活動が市内の隅々に行きわたる体制を構築。赤ちゃん訪問にも力を入れ、地区担当保健師と連携し毎年訪問率9割以上を維持。コロナ禍で活動に変化を余儀なくされる中こども用マスクの制作配布、「子育てまつり」事業の復活、「わくわくキッズフェスタ」への事業参画など社会の変化に合わせた活動を実施。R7年度山口県母子保健推進協議会会長表彰受賞。H30年度には協議会として「健やか親子21-8020の里賞（ロッチ賞）」を受賞。

【徳島県】戸島健治（医師）開業後40年にわたり地域医療・母子保健に従事。開業当初より自治体の乳幼児健診や予防接種事業の他、園医・学校医として小児期からの生活習慣病予防指導を精力的に行った。H13年には院内に病後児保育施設を設け、地域の子育て

世帯への多角的な支援を展開。美馬保健所管内母子保健推進協議会委員、健康みま21推進協議会会長、美馬市学校保健連合会会長等を歴任。市内唯一の小児科医として、地域全体の母子保健の向上、小児の健康増進と、安心して子育てができる環境づくりに多大に貢献している。

【徳島県】宮尾年恵（保健師）県庁所在地であり県内最大の人口を有し、県内で他市町村のモデルケースとして注目される徳島市において、予防接種手帳「ひまわりっこ手帳」による予防接種の一括管理、集団フッ素塗布への見直しによる受診率飛躍的向上、認定こども園における専門的な視力・聴力検査体制の構築など、時代に先駆けた先進的な事業を確立してきた。さらに不育症・不妊治療費助成制度の創設や5歳児健診の調査研究を主導するなど現場での直接支援から制度基盤の整備に至るまで、地域の母子保健行政の発展と充実に多大な貢献を果たした。

【香川県】窪田恵子（母推）H23年から活動。妊娠後期の妊婦を中心に面談し、身近な地域の子育て情報や市の母子保健事業などの情報提供、心配なことがあれば市の保健師と連携するなどして継続的にサポートを行う。「子育て広場」では参加親子に身体計測や温かな声かけを行うほか、親子のスキンシップを図りながら歯みがきの前段階として「乳児期から始めるおうちのマッサージ」を母推で作成し積極的に啓発するなど、母子保健推進と地域の子育て支援に貢献。

【愛媛県】宇都宮弥生（保健師）S62年旧野村町（現西予市）入庁。新生児訪問や相談対応にて成長段階に応じた支援や継続的なフォローを行い、母子と顔の見える関係を築いて育児不安の軽減解消に努め、健診受診率向上や個別支援の充実につなげた。1歳児・2歳児歯科教室も実施。児童相談所と連携し乳児期から就学までの障がい児の支援の場として「親子療育事業」を立ち上げ早期療育の先駆けとなるとともに、医療・福祉・教育部門等と連携を図り、就学に向けた切れ目の



豊見城市母推協議会制作の胎児模型等

ない支援を実現。また西日本豪雨災害では現地リーダーとして関係機関と連携しながら、妊産婦・乳幼児等の要支援者に対し、訪問等での安否確認や復興に至るまでの支援を行う。不妊治療費の助成事業開始や包括的支援の実現に向けたことも家庭センター立ち上げにも尽力した。

【愛媛県】村上孝子（保健師） 今治市発達支援センターの土台づくりから6年間、発達に不安を抱える方や家族の「総合相談窓口」の拠点としての定着とネットワーク形成に尽力し、保護者交流会や中学・高校コーディネーター合同研修会も開始。さらに、教育・医療・福祉・就労支援など分野間の垣根を越えた連携強化を目指した発達支援部会の運営、発達障害に対する理解を深めるための研修会など普及啓発にも積極的に取り組み、切れ目のない支援体制の構築に寄与。

【佐賀県】宮田琴代（母推） H22年より活動。7か月児のいる家庭を訪問して乳児健診や育児教室のお知らせ等子育て世代の母親への声かけにより育児の孤立を防いできた。また行政とのパイプ役として活動し、気さくで元気な人柄から、地域の身近な存在として母親たちの信頼も厚い。H30年から2年間は市母推協議会の地区理事を務め会の運営にも携わる。活動年数も長く実践経験も多いが、研修会などにも積極的に参加し研鑽を重ね、市母推協議会、担当地区の親子に不可欠な存在となっている。

【佐賀県】石田恵子（母推） H16年から活動。H22年度から現在まで佐賀県母推協議会の支部

理事を務め、地区のまとめ役として活躍。現在は支部長のかたわら県協議会理事として、県内の母子保健活動の推進にも尽力。赤ちゃん訪問で手渡すプレゼントづくりや市の相談会への参加など熱心に取り組むほか、各種研修会も積極的に参加し自己研鑽に努める。温厚で明るい人柄で、地域の親子から身近な相談役として信頼も厚い、また支援の必要な親子と行政保健師との重要なパイプ役を担い、地域の母子保健活動に尽力。

【長崎県】林田美津枝（母推） 30年余にわたって母推として活動し、時代の変遷、それぞれの親子に合わせた支援を行ってきた。昔ながらのつながりが強い地域であり、自らも移り住んだ経験があることから、乳児家庭全戸訪問などでは地域での子育てのコツや、その家族のことを十分に理解した上での関わりなど、その地域ならではの活動を実践する。担当地域で子育てサロンも運営し、継続的な乳幼児家庭の子育て支援に尽力。また市母推協議会も牽引するなど、母子保健の向上に大きな功績を挙げている。

【大分県】多賀野小津枝（保健師） H7年から地域母子保健事業に従事。「子育て世代包括支援センター（ハートパアルーム）」を開設し母子保健と児童相談の担当が連携したワンストップの相談支援体制を整備。妊産婦に対しては全例スクリーニングを実施、また市内の教育・保育機関を訪問し直接やり取りを重ね、児童虐待の早期発見・対応の協力体制を整備。障がい児スポーツレクリエーション教室の開催、市のこども計

画策定、「こどもの声」を施策に生かすため市のこども関連部署10課が連携した「こども連携会議」を立ち上げる。保護者の養育環境の厳しさ等の背景を深く理解し、寄り添う支援の大切さを実践するとともに、包括的支援体制の確立に大きく貢献。

【さいたま市】紙屋聡子（保健師） H3年に旧大宮市（現さいたま市）入

庁以来、新生児から高齢者まで全世代の訪問や相談を実施。母子保健では、3歳児健診の県から市への移行、保健センターまつりのイベントとして「両親学級」を企画・事業化、「子育てマップ」の作成、「妊婦健康診査費用補助券」の回数変更や「母子健康手帳」別冊のリニューアル、児童虐待予防対策としては、児童相談所と保健センターが連携した仕組みづくりに寄与。現在は、保健センター所長・こども家庭センター統括支援員として、地域で親子にどのように寄り添っていくべきかを職員とともに考え、組織マネジメントを担うなど母子保健行政に大きく貢献。

【新潟市】中川久重（助産師） 17年余にわたり市から依頼の新生児訪問や区の股関節検診・妊婦相談に従事。妊婦・未就園児親子対象の「おしゃべりカフェ」でも育児の悩みに寄り添ってきた。新潟市助産師会の助産師による子育て・女性健康支援電話相談「ハロー！Midwife」の相談員としてもすべてのライフステージの女性の相談に応じている。病院勤務や開業助産師としての活動では、母親学級や母乳育児指導、産後ケア等を通じて妊産婦や母子とその家族に、助言や寄り添い支援を行っている。県助産師会では総務理事を務めるなど会の円滑な展開に寄与。

【浜松市】安田孝子（助産師） 女性とこども、その家族の健康と幸福の実現を目指し、臨床・教育・研究・社会貢献に取り組む。病院勤務時代には妊娠期から産褥期まで母子が安全に過ごせるよう助産実践を重ね、両親学級、夫立ち合い分娩を導入し、家族がともに新しい命を迎えることができるよう、院内の理解を得ながら体制整備を行った。教育の場では、実習施設との連携を密にし、経験豊かな助産師から学ぶ機会を設け、学生の実践能力育成に努めてきた。現在は、母性看護学・助産学教育に加え妊娠糖尿病女性の産後フォローアップ体制に関する研究や地域母子保健に関する研究を継続。臨床・教育・研究に及ぶ多くの経験を生かした活動は、



専門職も常にリススキル、アップスキルを行い支援



母推さんによる家庭訪問

女性と子ども、その家族が安心して暮らせる社会づくりに多大な貢献をしている。

【名古屋市】伊藤千恵子（保健師）切れ目のない支援体制の強化として、各区の子育て総合相談窓口（子育て世代包括支援センター）が中心となって相談に応じ、経済的支援と一体的に実施する伴走型相談支援体制を確保。また子ども家庭センター設置に向けて福祉部門とともに検討ワーキングを立ち上げ、保健と福祉の連携による支援体制の構築を図った。産後ケア事業の利用料の軽減を図り新たに訪問型を開始。3歳児健診に眼科検診に加え、屈折検査を導入。プレコンセプションケアの推進のため教育委員会等と連携し研修、啓発媒体作成の予算化を図るなど、母子保健施策、体制の構築に尽力。

【神戸市】藤田朋子（助産師）市の新生児訪問開始当初から28年訪問に携わりながら、助産院や産科クリニックに勤務し、子育て支援・性教育・分娩助産など母子に関わる支援を行ってきた。現在は産後ケア施設で勤務し、神戸市と兵庫県集合契約の産後ケア委託事業を受けて1歳未満児と母親のケアに携わる。家族形態の変化や多様化に伴いハイリスクの母親も増える中、傾聴や助言をし、母親が安心して休める場所の提供や環境を整えることを大切にしながら、寄り添い支援に尽力している。

【柏市】村上広子（柏市民健康づくり推進員）H18年度より活動。1歳半頃までの乳幼児とその保護者を対象とした「赤ちゃんのつとい」

を月に1回開催、今年度は父親同士の交流促進を目的に土曜日に開催予定。また乳幼児期の親子が安心して参加できる環境を整えた「子育て応援コンサート」の開催、地域の中学校生を対象に「命の大切さ」を伝える授業に行政とともに取り組むほか、商業施設や地域のイベント、がん検診、3歳児健診など全世代を対象とした健康啓発活動を実施。協議会の役員を歴任、R6年度より会長として行政・関係機関との連携を推進し、地域の健康づくりに貢献。

【愛知県】澤崎尚美（医師）主に新生児から幼児期の親子を対象に、授乳・摂食・発達・育児支援に関わる諸問題に対処するための外来に携わる。産科、小児科および行政との連携を重視し、保護者支援を含めた妊娠前から小児期の特にメンタル面の問題を抱える保護者に柔らかに向き合い、子どもの「食べる」を支援するクリニックとしてもきめ細かな助言・指導を実施。市の幼児健診では多くの診察に対応し、行政保健師と顔の見える関係性により、かかりつけ医として行政とのダブルフォロー体制が構築され、地域の母子保健に多大に貢献している。

【松山市】頼木仁美（母推）H23年度から、こんにちは赤ちゃん訪問や1歳6か月児・3歳児健診の計測補助や幼児の見守りなどの活動を開始。子育てひろばでの育児講座「母推さんTO遊ぼう」、地域子育て支援センターでの傾聴・見守りなど、地域に密着した母子保健活動に貢献。R6年度から市母推協議会の副会長、またR4年度から市社会福祉審議会のメンバー。保育士資格を有し、現在も保育園に勤務する傍ら、ボランティア活動、愛媛県社会福祉協議会 保育士保育所支援センターの開設に携わるなど、多岐にわたる地域に根差した母子保健活動を推進。

【中央推薦】前村俊満（医師）大田区の病

全・安心・信頼のおける周産期に貢献してきた。H14年より日本産婦人科医会幹事、R4年からは副幹事長として日本産婦人科医会事業全体を把握し、同会の目的である「母子の生命健康を保護するとともに女性の健康を保持・増進し、もって国民の保健の向上に寄与する」事業を推進している。内科系学会社会保険連合・外科系学会社会保険委員連合の委員、大田区周産期検討委員会および災害対策委員長、大田区要保護児童対策地域協議会委員として母子の心身の健康管理に広く寄与。令和6年度消防庁長官賞受賞。

団体の部

【青森県】青森市病児一時保育所（一般社団法人青森市医師会 会長・北畠滋郎）保護者が家庭で保育を行うことができない0歳から小学3年までの児童を対象に、病気の回復期に至らない場合で病状の急変が認められない、または回復期で集団保育が困難である小児を対象に一時保育を行っている。H20年4月に設立し、青森市医師会が青森市から受託し運営。日曜祝日と年末年始を除き、月曜から土曜日の午前8時から午後6時まで開所し、児の心身の健康、地域医療の推進、保護者支援に大きく寄与している。

【岡山県】勝央町愛育委員会（会長・下山由佳里）S34年に発足以来、今年度は89名が赤ちゃんからお年寄りまで、生涯にわたる健康づくりをすすめて、すこやかな明るい地域をつくることを目指して活動している。子育て支援課活動では「ベビーマッサージ」や「離乳食教室」「子育て講座」等での託児や見守り、がん検診啓発活動では、子育て世代の保護者に愛育委員のメッセージを添えた啓発グッズを用意し、各保育園や小中学校に配布したり、健診のご案内を配布、掲示するなど受診勧奨を行っている。ほか、高齢者世帯への声かけ、敬老会・ふれあい祭りへの参加等活動は多岐にわたり、勝央町の住民の生涯にわたる健衛生活に寄与している。

口腔の健康をつくり守る口腔ケアは習慣性が高いことから、乳幼児期からの正しい歯みがき習慣、食生活を含む生活リズムをつくることが重要です。また、乳幼児の健康づくりは、行政や専門職だけでなく、家族・地域組織等の取り組みも重要であり、それらが密に連携した重層的な取り組みが期待されています。

本事業は、上記を鑑み、歯科口腔保健を含む乳幼児期からの健康づくりのための啓発活動を行っている組織を顕彰し、以って親子の健康づくりに寄与することを目的として行うものであり、今年度で19年目になります。今年度は、審査の結果、右の自治体、団体を表彰させていただくことになりました。本稿では、各団体の受賞活動の概要を紹介します。

【審査基準】

1. 地域の課題やニーズを汲んだテーマの活動であり、より多くの対象者に啓発することに努めていること。
 2. 行政、専門職、関係機関との連携が密であり、今後の活動の発展が期待できること。
 3. 複合的な取り組みである、または活動(制作物含む)に創意工夫があり、対象者の興味、関心を惹きつけることに努めており、その結果、対象者の行動変容に結び付けていること。
 4. 地元の特産、特徴を取り入れるなど、地域の活性化や新たな連携の構築、拡大につながっていること。
- 上記うち2つ以上を満たしていること。



昨年度奨励賞を受賞した豊田市母推の会は市長へ報告、CATVで放映

令和 8 年度 「健やか親子 21 — 8020

令和 8 年度「健やか親子21—8020の里賞(ロツテ賞)―」各賞受賞団体

賞	団体名	媒体名	媒体の種類
優秀賞	豊田市母子保健推進員の会(愛知県)	食育「たべまる遊び」 -乳児編-	・寸劇 ・手づくり教材
優秀賞	橋本市子育て応援課(和歌山県)	親子で笑顔が増える かみもぐ (カミカミ モグモグ)	・手づくり教材 (動画・展示用パネル)
佳作賞	(一社)滋賀県歯科衛生士会大津高嶋支部(滋賀県)	歯科衛生士とけんちゃん、 はなちゃん～みんなの歯 とお口を守ろう～	・手づくり教材 ・人形劇
佳作賞	松山市こども家庭部すくすく支援課(愛媛県)	6さいきゅうしのみがきか た～おとなのはがはえて きたよ～	・手づくり教材 (動画)
佳作賞	土佐市健康づくり課(高知県)	かしこく摂ろう! ジュースとお菓子	・紙芝居 ・手づくり教材
奨励賞	所沢市こども家庭センター(埼玉県)	トコロんといっしょ トンちゃんゴリちゃんの モグモグシャカシャカだ いさくせん!	・エプロンシアター ・手づくり教材
奨励賞	富里市健康推進課(千葉県)	金ちゃんとむし歯の仕組 みを学ぼう	・手づくり教材 ・エプロンシアター
奨励賞	守山市健康推進員連絡協議会虫歯予防部会「とんとんクラブ」(滋賀県)	・おべんとうなあに? ・はらぺこあおむし	・手づくり教材 ・寸劇
奨励賞	2525(ニコニコ)ベース(福岡県宇美町)	こどもの第3の居場所づくり	・こどもの居場所づくり ・通信(機関紙)

【優秀賞】

豊田市母子保健推進員の会 (愛知県)

食育「たべまる遊び」—乳児編—

豊田市健康づくり応援課の依頼により3～5歳児を対象とし、市の食育キャラクター「たべまる」を活用した食育啓発活動を令和5年度より、こども園などを訪問し

行ってきた。今般、日ごろの活動を通して、乳児を持つ親から偏食や便秘、食に関心がないなどの悩みを聴いていたこと、親子のコミュニケーションの希薄さを感じていたことから、乳児およびその保護者を対象に食事への興味・関心を持ち楽しく実施できるよう教材を考案し、令和8年度より子育て支援センターやつどいの広場にて



「たべまる遊び」では一組ずつの親子に寄り添って

の里賞(ロッセ賞)―受賞団体決まる!



10～11 か月健康相談の待合で動画の視聴とパネルの展示(橋本市)



月齢に応じた情報提供(橋本市の動画より)実施。主食、主菜、副菜、汁物、デザート等を「たべまる」に食べさせたり親子が3つの色に分類し、何を食べるともっと元気になれるかなどを考える。市内いずれの地区でも実施できるよう、会員の研修で目的や方法を伝え実践し、さらに、こどもの月齢や伝えるテーマに合わせ複数のシナリオ、実演動画も作成し、地域(実施者)による違いが出ないように工夫した。審査会では、集団に対する活動に加え、ひと組、一人ひとりの様子を確認しながら伝えている点が、母推さんの寄り添い支援らしい、との評価もあった。

橋本市子育て応援課(和歌山県)手づくり動画「親子で笑顔が増えるかみもぐ(カミカミモグモグ)」

乳幼児健診時に月齢に応じた「栄養」と「口腔」の集団指導をしていたが、コロナ禍で集団指導、健診等ができなくなったため、自宅でも視聴可能な動画を制作・配信



離乳食の進め方と歯の生え方(橋本市の動画より)し、情報格差を解消してきた。各種事業再開後も動画を再編集し、健診時の待ち時間用としても活用。会場では動画のほか要点をまとめたパネル、幼児がお口や口腔ケアに関心を持つよう大型の顔出しパネルや大型歯科清掃具なども制作。動画は、月齢やテーマによって複数本制作し、市のホームページからYouTube配信し自宅で見られるほか、健診待ち時間でも放映。より詳細な内容を盛り込んだ動画は教室で活用している。

審査会では、月齢や健診段階、テーマにより複数の動画を制作し、内容の見直しを行っていること、動画、パネ

ル、こどもの関心を引く大型の顔出しパネルなど、情報を伝える、関心を持ってもらうための多角的な取り組みであり、多職種が連携し総合的にアプローチしていることなどが評価点として挙げられた。

【佳作賞】

一般社団法人 滋賀県歯科衛生士会
大津高島支部(滋賀県)

人形劇「歯科衛生士とけんちゃん、はなちゃん～みんなの歯とお口を守ろう～」

大津市歯科医師会より、キッズ向けイベントのステージブースの依頼があり、最近話題の「お口ぽかん予防」を含めた歯と口を守るための啓発活動に、こどもたちに伝わりやすい媒体として大きめの人形2体、歯、むし歯の成り立ちのパネル、あいうべ体操およびパタカラ体操のパネル、歯みがきのポイントパネル等を制作。人形は、口の中がよく見えるように歯も並べ、お口ぽかんになるよう工夫した。大津市長および県歯科医師会からは、アイデアが素晴らしいと来場者にも大人気なので、今後もぜひ継続してほしい、との要望があった。



おやつ★歯あわせファミリーフェスタで上演
(滋賀県歯科衛生士会大津高島支部)



「あいうべ体操」では人形の口が大きく開いて(滋賀県歯科衛生士会大津高島支部)

松山市すくすく支援課(愛媛県)

手づくり動画「6さいきゅうしのみがきかた～おとなのはがはえてきたよ～」

本市では、令和7年度から、歯科衛生士が公立公営の保育園を訪問し、おもに年長児とその保護者を対象に「出前歯みがき教室」を実施し、歯みがきの大切さや、6歳臼歯の正しいみがき方について説明し好評を得ている。令和8年度から私立を含む市内の未就学施設(約200園)に対象を広げたが、市の歯科衛生士は2名であり全園での実施は不可能なため、公平性と効率性を重視し動画化したDVDを作成、6月にはYouTubeに掲載、全園に通知し各園、各家庭で視聴できるようにした。過去に「松山市親と子のよい歯のコンクール」で最優秀賞を受賞した親子に出演していただき、歯科衛生



松山市親と子の良い歯のコンクールで最優秀賞を受賞した親子が出演した動画(松山市)



実際の歯みがきにイラストを加えてよりわかりやすく



見づらいところなどは歯型模型で(松山市の動画から)

士と対話しながら、時に歯型模型を使い説明、こどもが飽きないよう5分程度とした。YouTubeで公開しているため、保育施設や歯科クリニック、家庭で活用されている。

土佐市健康づくり課(高知県)

紙芝居「かしこく摂ろう! ジュースとお菓子」

本市では、5歳児の肥満傾向児出現率が全国や県の平均より高い傾向にある。また令和7年度の3歳児健診の問診では、おやつを決めていない家庭が42%あったことから、生活習慣や食習慣が形成される3～5歳児を対象に、栄養士と歯科衛生士が連携し、おやつの上手なとり方やむし歯予防、口腔機能の育成について、楽しく学べる食育媒体を作成した。栄養の話では、運動が大好きでおやつを決めている「けんちゃん」と運動が苦手でダラダラとおやつをたべてしまう「ふとしくん」の2人を登場させ、こどもたちがおやつを貼っていく参加型の仕掛けを採用。歯の話では、紙芝居を見ながら全身運動や姿勢づくり、舌の体操、噛み方の練習を取り入れ、参加型とし、ふとしくんの口からは、むし歯が現れる仕掛けやブクブクうがいを取り入れるなど「見て・考えて・体を動かす」仕掛けを取り入れることにより、こどもたちが自然に楽しく学べる媒体とした。



手づくり媒体で食育指導(土佐市)



保育園等で紙芝居で食育の出前講座(土佐市)

【奨励賞】

所沢市こども家庭センター(埼玉県)

エプロンシアター「トコロんといっしょ トンちゃんゴリちゃんのモグモグシャカシャカだいさくせん!」

25年前より、形を変えその時々を必要を、改良を加えながら実施。3年前より事業、対象年齢の引き下げにより、現在の媒体で実施。2歳児歯科健康教室(2歳3か月～2歳8か月)において、参加親子に対して歯科衛生士と管理栄養士が季節に合わせ、市の特産物である里いも等を用い、自分磨きと食育について、2歳児が飽きないよう短時間で実施。親しみやすい豚のパペットと市のキャラクターのパペットは職員の手づくり、口が大きく動き、飲み込みや歯みがき



歯科衛生士と管理栄養士が自分磨きと食育を楽しく伝えて(所沢市)



管理栄養士によるミニ講話(所沢市)

が遠くからでも見えやすい工夫。こどもにも伝わるよう元気いっぱい演じている。最後に管理栄養士によるミニ講座(ジュースの砂糖の含有量や幼児の食事など)を実施。目に見えわかりやすい工夫にも努めている。

富里市健康推進課(千葉県)

エプロンシアター「金ちゃんとむし歯の仕組みを学ぼう」

こども園、保育園、幼稚園からの歯みがき指導の依頼の増加に伴い、平成20年よりオリジナルの媒体(エプロンシアター・手づくり教材)を制作し実施。食べ物、むし歯になりやすいおやつ(チョコレート、あめ、ジュース、果物等)、富里市特産のスイカも取り入れた。後におやつ=甘いもののみではなく、補食という目的も含めておにぎりも追加。むし歯菌も小さいものから食べかすのついた歯につける大きいものを作成し、園児に歯みがきをしないと、こんなむし歯菌がやってくるということをわかりやすく説明。最後の場面で、歯みがき後のきれいな口内の媒体も追加し、歯みがきをするときれいになることを視覚的にも理解できるように工夫するなど関係者で随



おやつやむし歯菌などの
手づくりパーツ(富里市)



改善を加えた手づくり媒体で保育園等で
歯みがき指導(富里市)

時検討し、見直し、媒体の追加を行っている。幼少期からのむし歯予防に貢献。



手づくり媒体で園を回って上演(とんとんクラブ)

守山市健康推進員連絡協議会虫歯 予防部会「とんとんクラブ」 (滋賀県)

寸劇・手づくり教材「おべんとうな あに?」「はらぺこあおむし」

乳幼児を対象に歯みがきの必要性を普及させるため活動開始。市が園児等を対象にフッ化物先口事業を開始したことに伴い、保育園、幼稚園から「人形劇や紙芝居を用いてむし歯予防に関する啓発を実演できないか」との要望を受け平成14年に発足。現在は「お口の健康」「食べることの楽しさ・大切さ」についての啓発活動も実施。手づくりの媒体にこだわり、オリジナルの台本、手づくりの人形・紙芝居・ペープサート等を使い公演。特にこどもの目をひく鮮やかな色使い、童謡をアレンジした替え歌を取り入れるなど工夫。「おべんとうなあに?」は、ペープサートに加え布製の大きなお弁当箱を作成し、物語の最中にこども一人ひとりに見せて回る演出に、こどもたちは世界観に入り込む。はらぺこあおむしは、媒



布製の絵弁当箱を
持ってこどもたちの
間を回ると、こども
たちは目を輝かせて

体を紙からフェルトにバージョンアップ。守山市の3歳児のう歯数の減少に、長年の活動が役割の一端を担っていると考える。

2525(ニコニコ)ベース (福岡県宇美町)

「こどもの居場所づくり・通信」

2525ベースは、宇美町に児童館がないという地域の課題を受け、公民館を利用した「こどもの第3の居場所」づくりに取り組む。月1回こどもたちが安心して過ごし、地域の中でさまざまな体験や交流ができる場を提供している。活動では、宇美町出前講座やまなびサポート、ふくおかこども体験活動出前隊の出前講座を活用し学びの機会を創出。2525ベース通信を発行し役場、社会福祉協議会、宇美商業高校、宇美東小学校、地域の関係機関や公民館などに配布し、活動内容やこどもたちの様子を発信。



地域をつなぐ「通信」と活動を伝える地元紙

地域の方の協力による農業体験、社協と連携して宇美商業高校のボランティアを受け入れるなど、活動が広がっている。地域の人、資源、福祉機関とつながりながら、こどもたちの「生きる力」を育み、地域全体でこどもの成長を支える活動を行っている。

健やか親子21 全国大会

併設本会議全国集会、今年度もオンラインで

11月5日(木)に札幌市教育文化会館(北海道札幌市)を会場に開催する「令和8年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会)」の併設集会『母子保健推進員等及び母子保健関係者全国大会』(主催:本会議・全国母子保健推進員等連絡協議会、後援:こども家庭庁等)は、昨年度に引き続き、オンラインにて行います。後段のシンポジウムでは、妊婦等包括相談支援事業における妊娠中から産後の面談を中心とした伴走型支援について2市の事例報告をもとに皆で考えます。

11月6日(金)10:00より来年3月31日まで、こども家庭庁の「健やか親子21全国大会」特設サイトよりYouTube配信を行います。ぜひ、ご視聴ください。

<プログラム>

「健やか親子21-8020の里賞(ロッテ賞)-」活動紹介・講評・表彰

講 話 「100年生きる世代のために～生活の中で育む口腔機能～」

神奈川歯科大学大学院歯学研究科小児歯科学分野教授 仲井 雪絵

特別講演 「最近の母子保健施策の動向」

こども家庭庁成育局母子保健課生殖補助医療係長 臼井 麗

シンポジウム 「妊婦等包括相談支援事業における伴走型(寄り添い型)支援のあり方」

基調講演 座長 公益社団法人 母子保健推進会議 会長 佐藤 拓代

事例報告① 「栃木市における妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援」

栃木市こども家庭センター所長・統括保健師 田名網明子

事例報告② 「山陽小野田市の妊婦等包括相談支援事業と切れ目のない支援」

山陽小野田市子育て支援課こども家庭センター統括支援員 山本真由実

事例報告③ 「地域で親子に寄り添うために～山陽小野田市の母推活動～」

山陽小野田市母子保健推進協議会会長 高木 理代

ディスカッション

※「8020の里賞(ロッテ賞)」優秀賞、佳作受賞5団体と母推協議会3団体の展示も配信します。



**妊娠中から知っておきたい
赤ちゃんとママのこと**

毎年ご好評をいただいている日本宝くじ協会助成で作成している標記冊子の追加申し込みを受付中です。冊子、送料共に無償でお送りしています。お申し込みは本会議ホームページからお願いします。

「気持ちに寄り添うスキルアップセミナー」のご案内

日々妊産婦さんや子育て中の方に接していて、この人になら話してみようと思ってもらうにはどうしたらよいか考えることもあるでしょう。このセミナーでは、関連の施策とそれをどのように現場で生かしていくか、また「寄り添い支援」について、理論と演習で学びます。皆様のご受講をお待ちしています!

- 日 時 令和8年11月19日(木) 9:30～17:00
- 会 場 東京都助産師会館 5階講堂(東京都文京区)

編集帖

今号では「健やか親子21全国大会」を特集しています。内閣府特命担当大臣表彰、各団体会長表彰を受けられる皆様に、心よりお祝い申し上げます。2～7ページでは、今年度本会議会長表彰をお受けいただく方の功績の一端を紹介しています。スペースの都合でほんの一端しかご紹介できていませんが、それでも、妊婦さんや親子を何とか支えたいと、それぞれの専門性やお立場で奮闘されている姿と親子をみるやさしい眼差しが浮かびます。と同時に、推薦調書を作成された、被表彰者

の方のご尽力を近いところで見てこられた方も同じ想いで活動されてこられたことと存じます。敬意と感謝を申し上げます。

8～11ページでは「8020の里賞(ロッテ賞)」の各賞受賞団体の活動概要をご紹介します。それぞれの地域の課題と時の社会状況に向き合い、正しい情報を伝えるだけでなく、対象の幼児や親子にどうすれば関心を持ってもらえるか、行動変容につながるか、熱意をもって試行錯誤されていることが伝わってきます。皆様にも心からの敬意と拍手を捧げます。(Y)

発行:公益社団法人 母子保健推進会議
発行人:鍵溝和子 編集人:高橋睦子
協力:全国母子保健推進員等連絡協議会

東京都文京区音羽1-19-18
東京都助産師会館 4F (〒112-0013)
TEL.03-6902-2311 FAX.03-6902-2331
Eメール bosui@bosui.or.jp
URL https://www.bosui.or.jp

年間購読料 2,640円(税別込み)
母子保健推進員等特別価格
年間購読料 1,320円(税別込み)
郵便振替口座 00120-9-612578